

みどりチェック(環境負荷低減のクロスコンプライアンス) 全 域

農林水産省の全ての補助・融資事業等を活用する場合、「環境にやさしい取組で生産します」という内容の『みどりチェック』シートを提出することになります。(環境負荷低減の取組の義務化)

「みどりチェック」は、誰でも取り組むことができる内容となっています。生産者の皆さま、農業生産活動において、環境負荷の低減と消費者への理解を深めるために、実践しましょう。取組む内容は、右図の7項目です。

下の表がチェックシート取組表の一部です。

みどりチェック(環境負荷低減のクロスコンプライアンス)シート			
	申請時 (します)	(1) 適正な施肥	報告時 (しました)
①	<input type="checkbox"/>	肥料の適正な保管	<input type="checkbox"/>
②	<input type="checkbox"/>	肥料の使用状況等の記録・保存に努める	<input type="checkbox"/>
③	<input type="checkbox"/>	作物特性やデータに基づく施肥設計を検討	<input type="checkbox"/>
④	<input type="checkbox"/>	有機物の適正な施用による土づくりを検討	<input type="checkbox"/>

- ▶ 事業開始前に、取組表の申請時の欄「します」にチェックします。
- ▶ 各項目にある環境にやさしい生産に取り組みます。
- ▶ 事業報告時の欄「しました」にチェックします。

『みどりの食料システム法の基本方針における基本的な取組』

- ✓ 適正な施肥
- ✓ 適正な防除
- ✓ エネルギーの節減
- ✓ 悪臭・害虫の発生防止
- ✓ 廃棄物の発生抑制
循環利用・適正処分
- ✓ 生物多様性への悪影響の防止
- ✓ 環境関係法令の遵守



有害鳥獣対策研修会(イノシシ捕獲技術向上) 全 域

令和6年10月24日(木)とぎつカナリーホールにおいて、農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー 和田晴美氏(ワイルド・ライフサポート HARU) による鳥獣対策研修会を開催しました。今回は、イノシシ3対策(防護・環境整備・捕獲)の内、効果的な捕獲についての研修を実施しました。

箱わなを仕掛ける時の注意



成獣(親イノシシ)を捕ることが重要!

親子連れのウリ坊だけを箱わなで獲ると、その後、親イノシシは箱わなに入らない「スレ個体」となります。さらに、子を失った親イノシシは、再度発情し、秋に子どもを産むこともあります。成獣(親)を獲るために、けり糸の高さを20cmに調整することがポイントです。



箱わな

わな設置場所の選定等

- ▶ わなを仕掛ける場所は、安全第一を考えて、わなへの【標識】設置と近くに【わな注意】の表示を行います。
- ▶ 痕跡からイノシシの動き(侵入口、経路、退出口)や大きさを確認して、罠の設置場所を決めます。
- ▶ くくり罠を仕掛ける場合、空腹時は警戒して侵入して来るので、満腹で油断して帰る所を狙います。
- ▶ 箱わなは、けり糸から入口扉までの長さが、イノシシの体長+20cm以上必要です。

詳しくは、県央振興局地域普及課までお尋ねください。